

## 教育の“そもそも”へ立ち返って考えましょう！ 全教福山第35回定期大会 開催

全教福山は6月24日（土）、第35回定期大会を開催しました。

大会開催に当たって、この時期の諸行事と日ごろのお疲れから、執行部は参加確認に苦戦しましたが、会場参加14人（他委任状）で大会を成功させることができました。

開会あいさつで舩石委員長は、「現場はとにかく多忙で、定期大会でもなかなか参加が難しい状況です。7月に予定している県教委交渉のテーマは“多忙と先生不足”にしたいと思っています。」と述べ、そのための交流と学習を活発にしておくことを呼びかけました。

北川書記長から議案の提案を行った後、討論に入りました。今年は全教広島定期大会（5/20）での討論が注目された井上さん（城北中分会）に、その実践をより詳しく紹介してもらい、それをもとに討論を行いました。

井上さんは、子どもの主体性が強調される中、「しかし本当の主体性が育っているようには思えない」と問題提起し、「主体的に考え、学ぶ」という本来の目的がないがしろにされ、「テストの点数を上げる」ことが目的化している教育の現状を分析していきます。「子ども自身が自分で決めきれない教育」と「その結果が自己肯定感の低さや自殺者数の多さに示されている」とし、「対話によって自立を促すことが大切」と強調しました。その際のキーワードは「どうしたの？ どうしたいの？ 先生たちはこんな支援ができるよ」であり、そういった「教育の“そもそも”へ立ち返って考えることが大切です」とまとめました。

いくつかの具体的な事例に触れながら、こうした実践を学年、学校、そして校区でも共有して学び合っていることも紹介されました。

全体の討論では、次のような意見が出されました。

- ◎ 井上さんの報告は、多忙の中での教材研究、職員の意思統一、生徒への信頼感という点で素晴らしいと思います。
- ◎ 個々の子どもたちに応じた指導ができるのが一番ですが、多忙でその条件がありません。
- ◎ 子どものちょっとした行動でも、後から指摘されたときに「ちゃんと指導しました！」と自分を守るためにいちいち言わざるを得ない状況があります。
- ◎ さまざまな場面で「知らん、できん、ムリ」と口にする子どもたちは、成長の過程で何があった



のかを分析することが大切です。小・中・高と、分からないこと（できないこと）の上塗りをしてきたのだらうと思います。

- ◎ あれもこれも次々と指示ばかり出されてパニック状態の現場で、教員に主体性が保障されないのに子どもたちに主体性って…それはどうなのでしょう？
- ◎ 中学校から小学校への異動で、小学校の先生は本当に忙しい！というのを実感しています。
- ◎ 勤務時間外に校外で起こった問題の解決を学校に求められることがあります。どこまでが私たちの仕事なのでしょう？

### 23年度役員選挙の結果について

選挙管理委員会から、別紙のとおり結果が報告されました。みなさんの投票、ありがとうございました。

## 子どもと教育を守る福山市民の会第10回定期総会

# いま、学校の意味と 教師の役割を問い直す ～教育の危機と希望、教職の過酷と魅力～

子どもと教育を守る福山市民の会は6月11日（日）、第10回定期総会を開催しました。今年の記念講演には佐藤博さん（元東京都の中学校教師、教科研常任委員）をお招きし、先生という仕事の魅力を縦横に語っていただきました。（以下、船石委員長がまとめられた講演録をもとに講演要旨をお届けします）

### ■ データにみる大変な日本の子どもたち

日本の子どもの精神的幸福度(OECD 中)38カ国中37位、子どもの自殺数が514人で過去最多…なぜ日本の子どもたちは「不幸」なのでしょう？

### ■ 「学校のつまらなさ」について

学校で繰り返される「従順訓練」、生徒会などの自治活動の衰退、「どうせ世の中こんなもの」を超える学びの体験の少なさ、「信頼され、あてにされた体験」や「背中を押してもらった体験」の不足…などが学校をつまらなくさせています。

### ■ 人の幸福は、子ども時代にその原型がつくられるのです

「学校はよい思い出を作るところ」「よい思い出を持った人は生きることから降りない」のです。人の幸福は、子ども時代にその原型がつくられるものです。そして「学校は、教師にとっても学校である」…学び成長する場です。学校は、誰にとっても本来、「出会いの場」「先生、友だち、人類の文化遺産を知る場」「新しい見方・考え方を手に入れる場」「生きる楽しさや大変さを知る場」「自信とか信頼とかが生まれる場」「何かを知り、何かができるのではないかと可能性が広がる場」としてあるべきなのです。だから私たちは、何歳になっても子ども時代の思い出に支えられて生きているのです。

「どうせ俺なんか、生まれてこなければよかった」から、「こんな自分を引き受けて生きる！」へと変わっていくことができる場が学校なのです。

### ■ のび太くんが教えてくれること

人がまちがうところばかり見ようとする学校、人の失敗をよろこぶような人間関係・友だちではダメです。支え合い、共同するところに人間の本質があります。

ドラえもん『のび太の結婚前夜』…タイムマシンに乗って自分の結婚式を見に行ったのび太は、



大人になってもドジなままの自分にガッカリ。結婚相手のしずかちゃんは、マリッジブルーになっていて、パパに結婚をやめると言いだしました。ひととおり思いを聞いたパパは、しずかちゃんに語りかけます…「のび太くんは、人の幸せを願うことができる人、人の不幸を悲しむことができる人。それが人にとって一番大事なことだよ」。

## ■ 「批判なき真面目さは悪を成す」一子どもたちの成長に責任を負う教師として

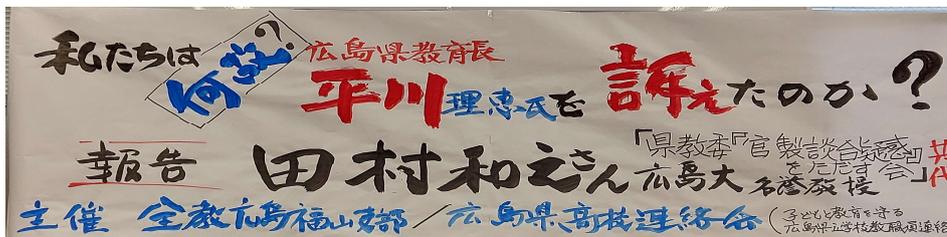
日本の教師は、戦場の兵士のような長時間過密労働の中にいます。毎年およそ 5000 人の病気休職、100 人の自殺、教員志望の激減…。しかし、問題のない学校がいい学校ではなく、問題から学んでいる学校が優れた学校です。そのために先生の「余白」がどうしても必要です。先生の画一化ではなく、学校にいろんな先生がいて、いろんな担任がいて、いい加減な先生や変わった先生がいると話題にこと欠かず、風通しがよくなります。先生の個性が生かされていて、子どもがそれに触れる体験はとても大事です。

今の先生は、業績評価と競争によって序列を意識させられ、管理統制のワクに入れられてしまっていて大変です。ストレスも多く、社会での出来事、政治についての意見を授業や職員室で言いにくくなっています。しかし、「批判なき真面目さは悪を成す」のです。過去、政府の言うことをまじめにやった国民がいて戦争をさせられました。教師たちは、教え子に戦争へ行くようすすめたのです。そのことを忘れてはいけません。

教育の成果は、はるか彼方で大きく実ることを信じてがんばっていきましょう。



## 私たちは平川教育長の辞任を求めます



全教福山と県高校連絡会は1日(土)、『私たちは何故広島県教育長平川理恵氏を訴えたのか?』と題する市民学習会を開催しました。県内の8人が5月30日に、教育長に対して損害額5700万円を返還するよう求めて裁判をおこしました。学習会はこの問題の核心を学ぶもので、講師には「ただす会」の中心として活動されている田村和之さん(広大名誉教授)がおいでくださいました。

### ■ 大きな問題点が3点あること

- ① 教育長が親交のあるNPO法人パンゲアと契約し「官製談合防止法」に違反した。
- ② 社長が教育長宅に宿泊していたキャリアリンクや赤木かん子氏との「随意契約」は便宜と利得を与えるもので、現場を混乱させた。
- ③ 4年間で721万円ものタクシー代を使い、県に甚大な損害を与えた。

### ■ 裁判は、法廷の中だけではたたかえないこと

広島教育にはさまざまな「異常」がありますが、こんなことを許していいわけがありません。市民と組合の運動によってなんとしても正していこうではありませんか。裁判闘争は法廷の外でのたたかいが勝敗を決します。平川教育長の辞任を求めて、署名運動をしっかりと進めましょう。

# 福山退職教職員協議会 が 第31回総会を開催

福山退教協は6月30日（金）、4年ぶりとなるオンライン総会を開催しました。総会には約30人が集まり、はじめに船石全教福山委員長が、福山の教育情勢報告を兼ねてあいさつを行いました。

船石さんは、全教中央本部の「今の先生は、10tトラックに20～30tの荷物を積んでいる状態、しかも、多種多様な荷物を各目的地に運んでいる。これでは車もたないのは当たり前」との表現を引用して、現場の超多忙状況と先生不人気の背景を説明しました。

また、子どもたちも実力診断テスト、全国一斉学力調査、学力の伸び調査、定期テスト…と立て続けのテストの結果、大きなストレスを抱え込んで不健康に陥っていることを紹介しました。さらに、学校ではニュースの話、政治の話、戦争の話、宗教の話、天皇の話をしにくい空気があることを紹介し、「大人が社会のことを批判を交えて子どもに話したり伝えることは必要なことです」と指摘するなど、福山の教育の実態と問題点、そして私たちの運動の重要性をリアルにわかりやすく話しました。



福山退教協は、全教福山を結成し、育て、今日につづく基礎をつくってくださったOG/OBのみなさんが中心になって結成されました。いつも「全教福山のためなら何でもお手伝いしますよ！」と、あたたかく私たちを励ましてくださっています。

ご参加のみなさんからは、「船石さんのお話がとても分かりやすくよかった！」「“集まれば元気、語り合えば勇気、学べば確信”を確信できる総会でした」などの声が多くありました。



## 全教広島、県教委交渉が迫っています～職場情報をお寄せください～

全教広島は7月10日(月)午後、県教委交渉を予定しています。現場の勤務実態を伝え、その打開を求める絶好の場です。職場情報とみなさんの切実な要求をお寄せください。

1. 地域や学校で「働き方改革」にかかわる取り組みや実態について教えてください。
2. 「教育に穴が空く」「代員未配置が続いている」などの深刻な実態をできるだけ具体的に寄せてください。
3. 県教委や各教育委員会などに「これをなくしてほしい。削減してほしい」などの要求を出してください。
4. 「パワハラ」と思われる実態はありますか（管理職・同僚間でも）。具体的に教えてください。
5. その他、交渉や折衝などで取り上げてほしいことなど…

### 当面の予定

7月

- 6 (木) 県労連第10回幹事会 (18:00 オンライン)
- 10 (月) **全教広島県教委交渉 (15:15 広島YMCA本館)**
- 12 (水) 福山「教育」を読む会 (18:30 全教福山書記局)
- 14 (金) 全教福山第5回執行委員会 (19:00 書記局)
- 18 (火) 地区労会議第8回幹事会 (18:30 川口東公民館)
- 19 (水) 子どもと教育を守る福山市民の会第4回事務局会議 (19:00 場所未定)
- 20 (木) 全教広島第4回執行委員会 (19:00 オンライン)
- 26 (水) **国民平和前行進in福山 (12:30 大門町三角公園)** …村上厚子さん、順調に行進中です！

もうお手元に残っていませんか？一筆も無駄にしないよう、よろしくお祈りします！

